

授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：メディア論を読み破る！ ILAS Seminar: Reading through media studies!			担当者所属 職名・氏名	教育学研究科 教授 佐藤 卓己		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール
開講年度・ 開講期	2018・前期	受講定員 (1回生定員)	8(5)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	教育学部本館4階佐藤研究室 (403)(本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	メディア論 / ジャーナリズム / プロパガンダ / 世論調査						
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>メディア学研究者あるいはジャーナリストを志望する学生のための知的筋力トレーニング講座である。</p> <p>毎週一冊づつ、メディア論関連の課題図書全員が読破し、担当者の概要報告の後、全員でディスカッションを行う。</p> <p>前半は新書や文庫など比較的簡単なものをこちらで指定する。たとえば、武田徹『日本ノンフィクション史 ルポルタージュからアカデミック・ジャーナリズムまで』（中公新書,2017年）、佐藤卓己『ヒトラーの呪縛 日本ナチカル研究序説』（中公文庫,2015年）、など。</p> <p>後半は参加者が自ら希望する図書を選び、こちら全員で読み討議を行う。</p> <p>各自が読破を希望する図書を選ぶ参考書として、井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 第6巻 メディア・情報・消費社会』（世界思想社,2009年）、難波功士『メディア論』（人文書院,2011年）、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店,2009年）などを参考にすること。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
<p>メディア論や広報学に関する基本的知識を習得し、本格的な研究に進むために必要な知的筋力をつけることが目的である。毎週、一冊以上の専門書を継続的に読み続ける力を養う上で、学部時代の多読習慣は不可欠である。</p>							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<p>第1回 イン트로ダクション メディア学に必要な読書スタイルとその習得方法について説明する。授業の進め方と準備・発表の方法を周知するとともに、前半で扱うべき課題図書の選定を行う。また、出席者の担当と日程を決定する。</p> <p>第2回～第6回 メディア論関連の新書、文庫の読破 「授業の概要と内容」で示した方式によって、メディア論関連の課題図書を毎週一冊読破していく。担当者が内容について報告し、全員で討論する。参加者の興味関心に応じて対応するため、毎回の予定を示すことはできない。第1回のイントロダクションとその後の面談によって、課題図書は確定する。</p> <p>第7回～第14回 メディア論関連の単行本の読破 各自の関心に応じて、読むべきメディア関連図書を読破していく。</p> <p>第15回 まとめ、今後の目標にむけて 13回にわたる報告と討議の成果を振り返り、各自が今後読むべき書物について全員で議論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p>							
ILASセミナー：メディア論を読み破る！(2)へ続く							

ILASセミナー：メディア論を読み破る！(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

レポートの内容（2回、各30点）、討論への積極的な参加（40点）により評価する。

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）

佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）（特に第5章「何を読むべきか」を参考にしたい。）

佐藤卓己『現代史のリテラシー 書物の宇宙』（岩波書店）（メディア史、プロパガンダ史を中心とした書評集）

（関連URL）

<http://satolab.educ.kyoto-u.ac.jp/>（メディア文化論研究室の公式HP）

**[授業外学習（予習・復習）等]**

事前に課題図書を通読してくること。

**[その他（オフィスアワー等）]**

メディア論、メディア史、広報学などに関心があり、研究者かジャーナリストを目指す学生の参加を希望する。

関心のある学生は、「メディア文化学概論」（月曜3限）にも出席することを薦める。

オフィス・アワーは特に指定しないが、事前にメール連絡があれば個別に対応する。